

# ミライカフェほの国2018の開催結果

## 目的

東三河地域を「住みたい町」「住んでみたい町」として維持・変えていくため、若者である高校生に焦点を絞り、事業プラン等の意見交換や高校間の連携についてのグループワークを行い、地元への関心や愛着心等を高めることを目的に開催。  
**今回で5回目**となる。

## 実施概要

日時：平成30年2月3日（土） 12:30～16:00  
場所：開発ビル6階601（豊橋市駅前大通2-33-1）  
参加校：渥美農業（5名）、豊橋工業（1名）、豊橋商業（2名）、三谷水産（7名）、桜丘（7名）の5校 22名、先生（8名）  
男子生徒16名、女子生徒6名  
コーディネーター  
内浦有美（株）うちうら 代表取締役  
谷口庄一（株）リージョナルブレインズ代表取締役 他2名

## グループワーク

「東三河の好きなところ／嫌いなところ」、「まちがこうなればよい」、「こんなまちに住みたい」について、参加高校生でグループワークを行い、課題を明らかにしながら、東三河の将来のまちづくりについて討議しました。



## ビジネスプラン等の取り組み発表

(1) 渥美農業高校  
コラーゲンたっぷりの白いカレー



(2) 三谷水産高校  
深輝（シンキ）あら！？メヒカリさん

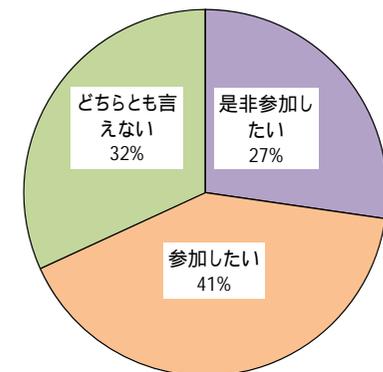
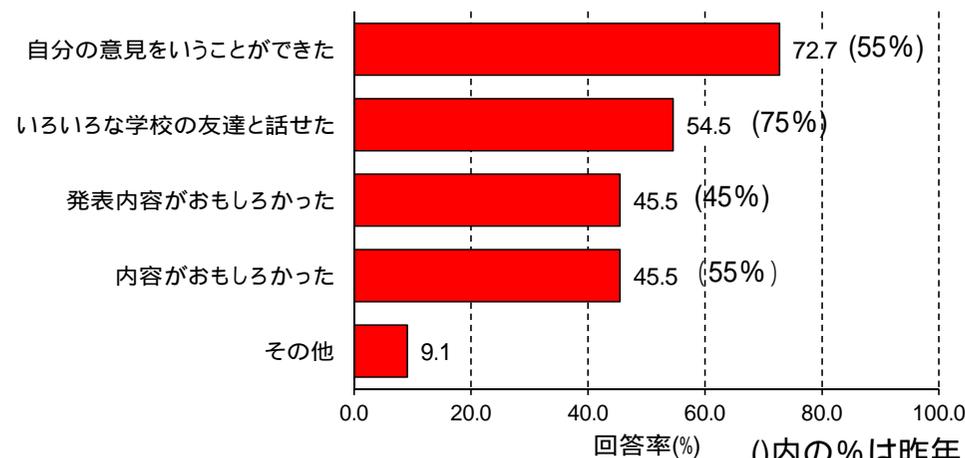
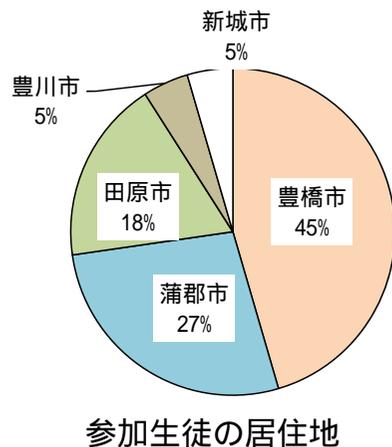


(3) 桜丘高校  
地域の自然の魅力発信！



### アンケート結果

- ・生徒22人のアンケートでは、全体的に「自分の意見をいうことができた」(73%)、「いろいろな学校の友達と話せた」(55%)と概ね満足感を得られたのではないかとと思われる。
- ・昨年の結果と比較してみると、「自分の意見をいうことができた」は55%から73%へ高まり、高校生が自分の意見を言える機会として効果が高まったと考えられる。
- ・今後の参加意向でも7割以上が意向があることがわかった。



## ミライカフェを通じて関心を持ったこと

### (東三河の魅力発見)

- ・自分の知らない地域の魅力をたくさん知られた。
- ・他の学校の人たちが言ってたような身近な自然、未利用資源の活用などに関心を持った。
- ・それぞれの町にそれぞれの良さがあること。
- ・自然の魅力や町の魅力。
- ・東三河の生物。
- ・他校と話す機会はあるにないから、こうした機会で見聞を交換して、「ああこんないい所があるんだ」とか「知らないことがいっぱいあるな」ということがわかり、東三河地域を前より知ることが出来た。もっと知りたいが広がって、話あうのも好きだなあと思いました。

### (地域への想い)

- ・自分の知らないことや、地元に対する想い。
- ・皆さんがどのように豊橋を良くしていきたいかが伝わった。

### (高校の色々な活動)

- ・色々な高校で色々なことをやっている。
- ・東三河で開発されている商品。

### (人によって意見が違う)

- ・1人1人の意見が違うので、1人1人の意見に関心を持てた。

### (東三河の課題)

- ・東三河の直面している問題。
- ・東三河の悪い所(改善していくべきことが多いと感じた)

### (その他)

- ・自分が関心のない所も関心を持てたこと。
- ・もっと東三河について知りたい。
- ・東三河の未来。

## 25年後の東三河はどんな街になっていて欲しい！

### 【自然の良さを残す】

- ・今ある自然や良さを将来も残して、この自分の地域の素晴らしさを実感できるような町。そのためには、今の自分に出来ることはゴミを拾ったり、こうした会に参加するなど、出来ることをしっかりやろうと思う。自分の町なので自分で守りたい。
- ・自然を残しつつ、都会ほどではなくとも、多くの店や施設がある町。
- ・自然豊かで楽しくなるような町。
- ・自然な町 / 山と海がきれいな街 / 自然豊かな街。

### 【子どもが育ちやすい街】

- ・子供が育ちやすい平和な町。ラブ&ピースな町。
- ・子供が増えている。東三河の魅力を知ってもらえる。

### 【若者も老人も楽しく過ごせる街】

- ・お年寄りや子供、若者たちがもっと楽しく過ごせる町。
- ・障がい者が安全に暮らせる街。
- ・福祉、安全面を充実させてほしい。
- ・若者の人口層が増える街。

### 【話し合える街】

- ・権威や評判ではなく、今自分たちに必要なもの、それを解決するためには何をすればいいのか話し合おうとする地域。

### 【色々な文化を取り入れた街】

- ・世界は一つの国となり、市町村はたぶん存在しない。だからいろんな文化を取り入れていると思う。

### 【利便性が高い街】

- ・今より、人口が増えて、暮らしが便利な街。
- ・イオンとタワレコがあって住みやすい街。
- ・すべての所が便利になるようにしてほしい。交通がもう少し良くなってほしい。
- ・今よりもっと発展していて、みんなが住みやすいと思える町。
- ・これまで以上に発展して、町の良いところをどんどん伸ばしてほしい。

### 【その他】

- ・こんな町に住んでみたいと思えるような町。
- ・住みやすい町。 / みんなが住みやすい。 / 今よりも自分たちが住みやすい町になってほしい。
- ・今より大きい市。
- ・より良い町（今日話したような）。

# 若い力が東三河をより良く

## 豊橋で「ミライカフェほの国」 取り組みなど高校生発表

東三河の次世代を担う学生に郷土愛を深めてもらおうと、東三河県庁と東三河地域研究センター

は3日、豊橋市駅前大通2の開発ビルで「ミライカフェほの国2018」を開いた。集まった高校生5校の生徒22人は、東三河の魅力や未来について語り合った。

4グループに分かれて行ったグループワークでは、課題の掘り起こしや未来のまちづくりなどについて討論。他にも、県立三谷水産高は深海魚×ヒカリを使った魚雷「深輝（しんき）」の開発プロジェクトや、県内一の鯉豚地帯・田原市ならではの「白いカレー」を開発した県立深葉農産高などが取り組みを発表した。

立豊橋商業高3年の夢田 慶盛さん(17)は今まで気づかなかった課題も知ることができた。働き方がらでも率先して解決に行動



豊橋市内の自然を生かした魅力PRの方法について、発表する私立桜丘高生物部生徒＝開発ビルで

「さいたい」、深葉農2年の近藤瑠亜さん(17)は「自然を生かした観光客が喜ぶような取り組みがあれば活性化するのは、これからは地元に残り、地域の皆さんへ今までの恩を返していきたい」と話した。

東三河県庁産業労働課長の鈴木伸樹さんは「皆さんには地域を盛り上げるための仲間になってほしい」と魅力を呼び掛けた。

(飯塚 豊)

# 東三河の高校生 まちづくり議論

豊橋

東三河地方の高校生がまちづくりについて意見を交わす「ミライカフェほの国2018」が3日、豊橋市駅前大通の開発ビルであ



「つた」写真。

公益財団法人「東三河地域研究センター」(豊橋市)と県が主催。参加した生徒二千二人は四グループに分かれ、「東三河の好きなところ」「二十五年後

もこのまちに住んでいられると想つか」などをテーマに議論を始めた。

「自然豊かで住み慣れた地域が好き」「地震の際の津波の影響が心配」など率直な意見を述べた上、最後に各グループの代表者が「ボランティアで山や海のゴミを減らすなど、私たちができることを進め、魅力のある東三河にしたい」などと提言した。

深葉農高2年の近藤瑠亜さん(17)は「他の学校の人と話すことができ、視野が広がりました」と話した。